

令和7年度 学校関係者評価報告書

学校法人 立志舎

東京ITプログラミング&会計専門学校名古屋校

学校関係者評価委員会

自己点検・自己評価実施委員会が作成した「令和6年度自己評価報告書の概要」を基に学校関係者評価を行いました。その結果を以下の通り報告いたします。

1. 令和7年度学校関係者評価委員会

<委員> (五十音順)

宇野 旭 氏 小原会計事務所 卒業生

木村 泰輔 氏 デロイトトーマツリスクアドバイザー合同会社

中京リスクアドバイザー

及部 高義 氏 株式会社日本旅行 愛知法人営業部

(株式会社日本旅行 愛知法人営業部 中道将志様が業務の都合で参加できないため代理として)

野村 健典 氏 MAC ミッドランド税理士法人 経営支援部

<事務局>

麻生 敏明 校長

吉田 行雄 教務部課長

水落 克己 教務部課長

岡 健志 教務部課長

2. 基準項目ごとの学校関係者評価・意見

項目	評価・意見
基準1 教育理念・ 目標・育成 人材像	<p>本校は、教育基本法に則り、学校教育法に従い、人格の陶冶と簿記、会計、情報処理およびビジネスに関する正しい知識を身につけ、日本経済の発展に貢献出来る人材の育成を目的とする。これを実現するために、カリキュラムの編成や新学科の検討などを行っている。理念・目的・育成人材像は、教職員・学生にも周知徹底しており、学外にも広く公表している。</p> <p>本校の特色は、公認会計士試験、税理士試験、情報処理技術者試験、旅行業務取扱管理者試験などの国家試験や日本商工会議所簿記検定などの資格試験の合格者を輩出していることと、民間企業就職率も高いことである。これは本学独自の教育システムである「ゼミ学習」によるところが非常に大きい。</p> <p>学校の将来構想について、現状では3～5年にかけては拡大戦略を立てず、既存の学校の内容充実に努めるべきとの結論に達している。</p> <p>この基準に関する取り組みについて委員の方から次の評価、意見があった。</p> <p>(1) 現状、3～5年は拡大戦略をおこなわないとあるが、拡大戦略を行わない理由</p>

	<p>はあるのか。</p> <p>(回答)</p> <p>一番は18歳人口の減少の問題があるからである。また、2026年問題（大学全入時代）もある。その現状を考えると、拡大よりは、現状の専門学校の枠の中で、しっかりと募集活動をしていくため、拡大戦略は行わない予定である。</p> <p>(2) 実際に働いていて思うことであるが、資格は就職活動でも仕事でも武器になる。しかし、今後（AIなど）を考えると資格に合格するだけでは足りないと思う。資格の使い方などの力を身につける必要があると思うし、人間味にあふれる人材育成、コミュニケーション力の向上もゼミ学習の効果・目標に掲げて教育していくべきであろう。</p> <p>時代の流れを考えると、専門性の土台にある人間性やコミュニケーション力を身につける必要性をより強く感じる。目標に掲げることで学生もそれに向かって努力ができるのではないかと思う。また、そのような教育を行えば、学生も社会で活躍できるのではないかと思う。</p> <p>また、ゼミ学習の中で相手のことを意識して教えたり伝えたりすることができれば、より効果が増すのではないかと思う。</p> <p>(3) 日本旅行では入社年次に合わせた研修を行っている。貴校のゼミ学習においても年次ごとに主旨を変えて（テーマを決めて）行っていけば、社会に出てからも役に立つのではないだろうか。また、各業界・企業が求める人材像を踏まえて方向性を定めたゼミ学習を行っていくのも良いのかもしれない。</p> <p>(4) 学生時代に様々な年代の人とゼミ学習を通して質問の仕方を学んだり、相手がどのように感じるかを学んだりする良い機会となった。ぜひ、この教育方法を続けていってほしい。</p>
<p>基準2 学校運営</p>	<p>学園の基本目標として「学生から信頼され支持される学校づくり」を掲げており、教務室、事務室、就職相談室、受付などに掲示している。</p> <p>事業計画としては、少子化などから今は拡大戦略を取らず、既存の学校の内容充実に努めることが大切と考えている。</p> <p>今後の状況の変化を正確に掴み、的確な判断をすることが必要である。</p> <p>運営するための組織図があり、それに従って運営されている。各部署には学校の目標達成のために数値目標が明確にされており、各部署の役割と権限、人的体制が整っている。運営組織や意思決定機能は効率的なものになっている。</p> <p>また、就業規則、育児休業規程、介護休業規程、母性健康管理のための休暇規程、教職員給与規程、法令遵守規程、ストレスチェック制度規程、ハラスメント防止規程などの諸規程が整備されている。</p> <p>公務員試験指導、就職指導、資格試験指導、対外活動などで顕著な成果を収めた者はその都度表彰している。昇進試験時に人事考課をしている。</p> <p>賃金の支払い基準を明確に定め、適正に運用している。</p> <p>日常的な意思決定は、管理職がしている。学校間の調整は運営本部または部次長会議で行っている。理事会、評議員会、部次長会議、責任者会議、課会議、公務員企画会議といった意思決定プロセスが制度化され、その権限を明確にしており、意思決定システムは確立されている。</p> <p>情報システムについては、学務システム（入試システムおよび学籍管理システム）、経理システムを個々に運用しインボイス制度に対応している。なお、就職部は求人情報と学生情報をデータベース化して業務の効率化を図っている。在学生への求人情報の提供、学校が取りまとめる求人への申込をオンライン化し、「就職支援</p>

	<p>ポータルサイト」として運用している。</p> <p>この基準に関する取り組みについて委員の方から次の評価、意見があった。</p> <p>(1) 学生に教えるということはある程度、教員の自己犠牲が必要で、それがなければ学生の成長はないと思うし、それがあるので成立している部分もあると思う。制度をがちがちに固めることが果たしてよいのかと思うところもある。ある程度遊びの部分があっても良いのかもしれない。例えば外部講師を活用するなど、教員に余裕を持たせることも必要なのではないかと思う。(休暇を取りやすくしたり、次の準備ができたり、オンオフ切り替えられたり、メリハリをつけられるのではないか。)</p> <p>それを行っていかないと、各職員の個々の力に頼った形の成果・結果だけになってしまうと思う。</p> <p>(2) 制度を整えるだけでなく、それらが円滑に運用されるように、社員が自発的に行うことが増えるなど、職員のためにエンゲージメント向上の取り組みを行っていったほうが良い。</p> <p>日本旅行では、「2ウィークチャレンジ」と銘打って2週間連続で休むためにどうすべきか全社員で考えることを行ってみたり、ファミリーデーを設けて、子供や家族に仕事を知ってもらう機会を設けたりしている。そのような事を行うことで仕事に対する誇りを持つことができるし、社員のやる気にもつながる。またそれがお客さまへ波及すると感じている。貴校でもエンゲージメント向上の取り組みがされていけば、学生に対しても良い影響を与えることができると思う。</p> <p>(3) ハラスメント防止規程には学生に対しても規程されていると思うが、自分自身、叱咤激励がないと勉強に取り組めないタイプだったので、あまり気にしすぎて指導に影響が出てしまうと、結果に繋がらなくなる可能性もあるかと思う。</p> <p>(回答)</p> <p>現在、様々な学生がおり、精神的に弱い学生も増えているので、それに対応していなければならない。昔のような厳しい指導ができないケースも増えてきている。</p> <p>昔に比べ言葉により気を使わなければいけない状況も増えてきている。伝え方等が難しい問題となってきている。</p>
<p>基準3 教育活動</p>	<p>各学科とも修業年限で「社会が求める人材像」のレベルまで達するようにしている。なお、公認会計士、税理士や高度情報技術者などの超難関資格を目指す学生には研究学科への進学を可能とし、さらにレベルアップできるようにしている。</p> <p>各学科の目標を明確にし、学内就職セミナーで企業から回収したアンケート回答を基にした「社会が求める人材像」を学生に明示しており、学生が専門的知識や技術を持った上で、多岐にわたる業界や職種の人材ニーズに対応できる教育を実践している。しかし、人材ニーズに関しては今後も常に把握していかなければならない。</p> <p>教育課程は、年2回開催する教育課程編成委員会での外部委員の意見を参考に、カリキュラム作成委員会において社会のニーズに対応するために必要な科目を体系的に編成している。また、カリキュラム会議において各学科で目標とする資格取得のために定期的に見直しを行っている。</p> <p>専門知識や技術以外にもビジネスマナー、コミュニケーション能力などを育成するキャリア教育を実践するため、該当する授業科目を設置し、また企業の採用担当</p>

者による学内就職セミナーも実施している。

平成 26 年度より文部科学大臣が認定する職業実践専門課程制度が発足し、本学 2 年制以上の学科はすべて職業実践専門課程の認定を受け、企業等と連携した実践的な演習を各学科で行っている。しかし、社会の人材ニーズや指導方法などの検証は継続していく必要がある。

授業運営の適否を判断し、授業システムの見直しをするため、学生による授業評価アンケートを実施するとともに、教育課程編成委員会での外部委員の意見を取り入れている。また、学生相談室を設置して学生の声を聞いている。

学生の成績評価および単位認定については、その基準を明確に定め、専門課程便覧などで学生にも周知徹底し、厳正に行っている。また、成績評価については本学ホームページ上にも公開している。

令和元年度より GPA 算定をするために、システムを改修し導入した。GPA の算定については、ホームページ上にも公開している。

各学科で目標とする資格・試験を明確に定め、その合格がより確実になるようなカリキュラム編成をしている。そして、試験終了後カリキュラム会議を開き、次回に反映させるようにしている。

学科の育成目標に向け授業を行うことができる教員として、専門性、人間性、教授力、必要資格等の諸要件を備えた人材の確保はできている。教員の専門性や教授力等を常にレベルアップするため、企業等との連携により最新の動向を取り入れる研修を行っている。

この基準に関する取り組みについて委員の方から次の評価、意見があった。

- (1) 成績評価について、私は資格を取るのが目標で、良い成績を取ることを重視していなかった。学生にとって必要なのかなと思った。

(回答)

本学は単位制なのでその単位取得を証明するための成績評価（進級・卒業条件に）は必要であるし、就職活動において成績証明書を提出しそれが評価されるケースもあるので必要である。

- (2) 授業評価アンケートを実施しているとあるが、その意見を反映して内容を変えたり、何か導入したりすることはあるのか。

(回答)

アンケートの内容が各担任の授業に対する評価点のようなものなので、アンケートを踏まえそれぞれが顧みて改善をおこなうことで、授業のレベルアップに繋がっている。

- (3) 取得する資格を外部の意見を取り入れて決めていることは大変良いことだと思う。

しかしながら、長期目線と短期目線での判断を行う上で、外部の意見以外の参考になることを探すのも良いかもしれない。

- (4) 人材開発担当者や採用担当者と話した際、昔は点数や資格合格で褒められるとモチベーションが上がっていたが、いまの若い人は、他者とどう違うかというところを評価されることにアイデンティティを感じるという話を聞いた。（劣等感が強い傾向がある、相手がうらやましいなというのも強い。）。

自社でも、表面上しか見えない上司からの評価だけではなく、周囲の人間や部下からどう映っているかの評価を匿名で記入してもらい、多面評価している。

	<p>貴校でも前期・後期の評価の際に点数では表すことができない、ゼミ学習などでの各学生の言動に対して担任が評価してあげるのもよいかもしれない。(良い所を伝えてあげる。)</p> <p>そのような定量で計れない相対評価となるものを学生に指摘してあげることで、就職活動などでも自信につながると思う。</p>
<p>基準4 学修成果</p>	<p>本学では就職率 100%を目指している。就職担当者と各担任が連携して学生の指導にあたっており、大手企業への就職が厳しいと言われている中でも就職実績を着実に上げている。また、本学の就職は基本的に正社員採用ということも特徴である。</p> <p>資格取得については公認会計士試験、税理士試験、日商簿記検定試験、情報処理技術者試験、旅行業務取扱管理者試験等において資格取得率の向上を図っている。今年度も順調に合格者を輩出している。</p> <p>多くの学生が公認会計士、税理士、情報処理技術者、旅行業務取扱管理者等の資格を取得することにより社会的評価を受けている。</p> <p><情報管理学科、ITビジネス学科の資格取得実績や就職実績の紹介></p> <p>【委員による評価、意見】</p> <p>就職先の企業を見ると、学んだことを活かせる企業に就職できているので良いと思う。</p> <p><会計学科 資格取得実績や就職実績の紹介></p> <p>【委員による評価、意見】</p> <p>(1) 他校では合格することを重視して、合格はしやすいが仕事ではあまり使わない科目を選んでいるところもあるが、貴校は法人税・相続税・消費税など税理士の実務に必要な科目の合格を目指している。税理士になった後も考えればこのスタンスを守っていくべきだと思う。</p> <p>(2) 法人税、相続税、消費税を合格して税理士になったことを言うと、逃げていないねと言われることもあり、このスタンスを続けていって欲しい。</p> <p><鉄道・観光学科 資格取得実績や就職実績の紹介></p> <p>【委員による評価、意見】</p> <p>日本旅行の新入社員にも総合旅行業務取扱管理者を持っていない人もいる。業界に勤める社員が受験しても不合格であるケースもあるので、専門学校生として、この数字は評価できると考える。</p> <p>就職に関しては、コロナ禍含め観光系への就職のニーズが減少し、鉄道のようなインフラ業界を希望する学生が増えているのかと思う。旅行業界希望者が増えることを期待したい。</p> <p>また現在、旅行・鉄道業界は多角化が進んできているので、就職指導の際に多角化が進んでいることを紹介したり、アドバイスしたりして入社後のミスマッチが起きないようにした方が良いと思う。</p>
<p>基準5 学生支援</p>	<p>就職相談室を設け、就職担当者及びクラス担任が学生の就職相談、履歴書の書き方、業界・企業研究、筆記試験対策、面接対策などの指導を行っている。また、企業の人事担当者を招き学内就職セミナー等を実施している。</p> <p>一人も退学者を出さずことなく入学者全員を卒業させることが最終目標である。そのために担任をはじめ各学科の教員が学生全員に目を配り、声をかけて退学率の低</p>

<p>減に努めている。</p> <p>学生は、いろいろな悩みを持っており、それらの相談はまず担任にするが、担任に話せない事柄もあり、その時は、学生相談室が設けられているので、学生は相談室の担当者に相談している。</p> <p>学生の学業を全うさせるため、経済的諸問題の解決を支援する必要がある。そのために、特別奨学生試験、各種特待生制度、学費延納制度などを設けている。令和2年4月よりスタートした高等教育の修学支援新制度対象校として愛知県より確認された。引き続き今年度も確認されている。</p> <p>学校保健安全法に基づく健康診断を全学生に実施している。また、学校医が学生からの健康相談などに応じている。</p> <p>遠隔地出身者のための学生寮などの学生に対する生活環境支援は必要である。本学では学生寮運営に実績のある会社に依頼して学校提携寮として学生に紹介している。入居学生は家賃減額の適用を受けている</p> <p>野球部、サッカー部、バスケットボール部、バレーボール部、テニス部、バドミントン部、ダンス部などのクラブ活動や体育祭、学園祭、球技大会などの課外活動が盛んであり、学生主体で実施し、教職員が助言、指導をしている。</p> <p>学生に対して適切な指導、相談を行うためにも、出席状況、成績表を年に2回、学生相談室、就職相談室のお知らせ等を保護者に送付している。また、必要に応じて保護者と面談をし、学生の指導に役立っている。その内容を学務システムに記録している。</p> <p>同窓会の組織化、卒業生のフォローアップ体制の整備は、ともに今後検討すべき課題である。卒業後の再教育プログラムの整備、社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備についても今後検討すべき課題である。</p> <p>この基準に関する取り組みについて委員の方から次の評価、意見があった。</p> <p>(1) 体育祭や学園祭と言ったキャンパス行事は試験に向けての勉強の息抜きができた。ぜひ続けていってほしい。</p> <p>(2) 相談室への問い合わせがどのくらいあるのか。</p> <p>(回答)</p> <p>名古屋校全校で月に1～2回程度、相談室への問い合わせがある。</p> <p>なお、今年度から週末アンケートを全校で行うようになり、そこに相談ごとはないかの質問を入れ、あった場合は担任または他の職員がフォローしている。</p> <p>(回答を受けて)</p> <p>日本旅行でも「1人で悩まない、周りに相談しよう」という啓蒙活動を行っている。悩みがちな学生は、社会人になってもその傾向があるかと思う。学生のうちから、悩んだら他人に話したり伝えたりすることで解決できるという経験をすることは良いことだと思うので、相談室やアンケートを上手に活用して欲しい。</p> <p>(3) 卒業生のフォローアップ体制の整備について、具体的に何か取り組んでいることはあるか。</p> <p>(回答)</p> <p>TAC通信教育の割引制度を設けている。</p> <p>(回答を受けて)</p> <p>在学生と卒業生の交流を図るイベントを行えば、卒業生が来やすい環境も作ら</p>
--

	<p>れるし、フォローアップ体制の活性化にも繋がるかと思う。在生も卒業生から意見をもらえる機会ができてよいのではないかな。</p> <p>(4) 卒業生から話を聞くチャンスをつくることは、IT業界に目指すうえでも良いかと思う。IT業界と一言でいっても職種・内容は多岐にわたるので、仕事のイメージや、どういったキャリアプランがあるかイメージできないケースが多くある。そのような機会を作るのも良いと思う。</p>
<p>基準6 教育環境</p>	<p>施設・設備は学生に教育上支障がないように整備されている。 新校舎が令和5年12月に完成した。トレーニングルームとコンピュータールームに最新の機器を導入している。 例年は、海外添乗実習、国内添乗実習を実施している(注)が、さらに学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施を検討する。 学校保健安全計画を作成し、防災指導担当者を校務分掌一覧に規定し、定期的に避難訓練等を実施し、教職員、学生に防災に対する意識の喚起を行っている。 危機管理マニュアルを整備し、教職員に周知徹底を図っている。</p> <p>この基準に関する取り組みについて委員の方から次の評価、意見があった。</p> <p>(1) 今現在、基本的に対面式でゼミ学習の授業を行っていると思うが、授業に参加できなかった場合の補習用にweb授業であったり録画する環境整備をしたりした方が良いのではないかな。そうすれば教員の時間の余裕を作れるし、通えない学生のフォローアップにもつながると思うので検討した方が良いのではと思う。 (回答) 姉妹校のITコースが先行的に導入しているが、教室にカメラを設置してのハイフレックス授業を検討している。 現状で通信制の生徒の割合は約10人に1人。そのような生徒は毎日通うという事は難しいかもしれないが、入学者としてのターゲットではあるため検討している。また、そのカメラ等を活用し、遠隔地の高校対象のセミナーなどにも利用していく予定である。</p> <p>(2) ハード面において、最新の物をそろえるのは学校選びを行う上でもよいことだと思う。 また、学生が手軽に購入できる以上のスペックのパソコン機器に触れられる状況を作るとはIT業界を目指すうえでも良いことだと思う。</p>
<p>基準7 学生の受け入れ募集</p>	<p>入学案内書やガイドブック作成にあたってはその内容や表現において真実性、明瞭性また法令遵守が必要であることを認識し広報を中心に作成している。そのために具体的な数字を示すことや合格者の氏名のイニシャルを公表することにより志望者や保護者の方からの信頼を得られる内容になっている。高校を卒業後すぐに入学される方が多いのでその点にこだわった表現にもなっている。少子化時代にあり募集定員を満たすことが難しいが今後も志望者のニーズに合わせた学校運営を行っていく。</p> <p>入学選考は愛知県専修学校各種学校連合会の規定に沿って作成した募集要項により適正に選考を行っている。提出された入学願書の志望理由を中心に調査書・成績証明書も参考にして本学教育内容の理解度や今後の熱意を把握し可否の判定をしている。</p> <p>学納金に関しては学校の財政基盤の問題が出ないように適正かつ妥当な金額に設定されている。</p>

	<p>この基準に関する取り組みについて委員の方から次の評価、意見があった。</p> <p>(1) 拡大路線は取らないという話であったが、少子化対策として、募集人員を満たすために新しいものに取り組むことはあるのか。</p> <p>(回答)</p> <p>先ほど申しあげたハイフレックス授業の導入やニーズに合わせた専攻制の導入を考えている。また、会計学科では新しいコースの検討もしている。会計学科においては現状、難易度の高い日商簿記1級、全経簿記上級や税理士・会計士を目指すコースしかないので、幅広いニーズにこたえるコース(様々なことを広く浅く学ぶコース)の設置を考えている。</p> <p>(2) 貴校は高校生をメインターゲットにしている。全入時代・少子化の現状で、これから大学との競争が過熱していくと思うが、高校生の囲い込みや高校へのアプローチなど取り組んでいることはあるか。</p> <p>(回答)</p> <p>講師派遣や高校生対象のセミナーを通じて高校生自身や高校の先生へアプローチをはかっている。</p> <p>その他にSUKI-1グランプリ(中・高校生の好きを応援するイベント)を開催して、立志舎の認知度を上げている。</p> <p>(3) SNSを活用しての広報について、学生や高校生はInstagramなどで情報を集めることが多くなっている。それらを活用することは高校生が学校を知る機会となるとおもうので、引き続き活発に利用していった方が良いと思う。</p> <p>(4) 在校生や卒業生などの就職情報などが分かる資料やホームページは、学校選びにおいて、専門学校を卒業してからのイメージを持つことができるという意味で良いと感じている。</p>
<p>基準8 財務</p>	<p>近年の定員充足率の減少傾向に的確に対応するためにも、中期的な入学者数の予測や事業計画との整合性の十分にとれた実効性のある中期計画策定が望まれる。</p> <p>事業活動収支差額の状況、主要な貸借対照表比率等から判断するに、今後、財務基盤の安定化にさらに努めていく必要がある。</p> <p>予算の編成および執行に関する規程は、寄附行為、経理規程に定められている。予算の編成は適切手続きを経た上で確定し、予算を執行している。</p> <p>法人寄附行為に基づき監査を実施し、その結果を監査報告書に記載し、理事会および評議員会へ報告している。</p> <p>財務情報の公開は、私立学校法の規定に基づき、財務情報公開規程を定め、開示請求に対応する体制を整備している。</p> <p>この基準に関する取り組みについて委員の方から次の評価、意見があった。</p> <p>(1) 財務がしっかりしていないと継続していけるか不安になることもあるかと思うので、今の状況は評価できると思う。</p>
<p>基準9 法令等の遵守</p>	<p>「学生から信頼され支持される学校づくり」を基本目標に、教職員には毎年人権研修の受講を義務付けるとともに、その他必要に応じて研修等に派遣したり、資料を配布したりするなど、法令、設置基準を遵守するための施策として法令遵守規程を作成し施行している。</p>

	<p>個人情報保護規程、プライバシーポリシーを設定している。学校の保有する情報を委託業者に取り扱わせる際も覚書等で保護の徹底を行っている。</p> <p>本学では、「自己点検・自己評価委員会」を設置し、私立専門学校等評価研究機構の基準により点検、評価を行っている。</p> <p>学校情報は、文部科学省のガイドラインに従い、ホームページにて公開している。</p> <p>この基準に関する取り組みについて委員の方から次の評価、意見があった。</p> <p>(1) セキュリティ研修などの研修を定期的に行うと、その度に確認ができ、忘れずにいられることも多くあるので、ぜひ実施して欲しいと思う。</p> <p>(2) 学校の組織としての体制・姿勢や、コンプライアンス、プライバシーポリシーなどは、保護者が重視する点だとおもうので、取り組むことと同時に発信していくことは非常に大切だと思う。</p> <p>(3) 学生からの信頼だけではなく、学生の就職先に対しての信頼にも影響するので、法令遵守があったうえで事業が運営できることを改めて意識していくことが必要だと思う。</p> <p>(4) 法令遵守の形は整えていると感じるが、それを守る・使う側の人間（社員）の倫理教育にも力を入れていくべきだと思う。</p>
<p>基準 10 社会貢献・地域貢献</p>	<p>学生のボランティア活動を奨励、支援し、その活動状況を把握し評価している。学生の校舎外の近隣清掃を定期的に継続して実施しており、学生による近隣清掃は近隣住民からも好評である。</p> <p>高校生のフィットネス意識向上のため、本学が主催し「RHF 立志舎高校生フィットネスボディコンテスト」を開催している。</p> <p>また、TAC 株式会社と本学で「簿記チャンピオン大会」を共催し、学生や高校生が全国レベルでの習熟度合いの確認と簿記のスキル向上を図り、職業会計人を目指す場を設けている。</p> <p>この基準に関する取り組みについて委員の方から次の評価、意見があった。</p> <p>(1) 周辺地域の人の理解があって学校が成り立っているという事を学生に理解させたうえでこれらの貢献を行うことは重要だと思うので、これからも続けて欲しい。</p> <p>(2) 勉学だけでは身につけることができないし、人間性を育てる上でも必要な事だと思うので引き続き行って欲しい。</p> <p>(3) 大学の学園祭では、地域の人に向けて無料開放などやっている。そのような地域の人との接点を持てるものができたら良いのかもしれない。</p> <p>(4) 周りから応援される喜びを感じることもできると思うので、良いと思う。</p>

〔総括的な意見〕

独自の教育システムであるゼミ学習により例年通り又は例年以上の合格実績、就職実績をあげている点については、各職員の方々の努力の賜物であり、学生から信頼されていることの何よりの証だと思う。ゼミ学習による効果の一つであるコミュニケーション能力の向上は社会に出てから絶対に必要な要素であるため、社会に求められる人材の育成に尽力してほしい。

18歳人口減少に伴う大学 2026 年問題など専門学校を取り巻く環境は厳しく、また、現在精神的に不安定な学生や悩みを抱えている学生も増加傾向にあり、職員の負担も増加すると思うが引き続き頑張っていたきたい。